神戸新聞　2017年5月18日　朝刊
（第3種郵便物認可）

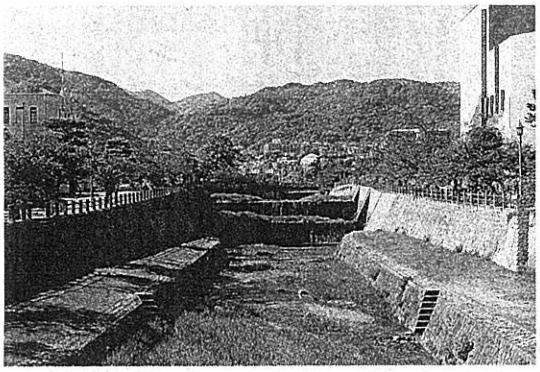
わが町の文化財 74

芦屋市　市指定

芦屋川の文化的景観
邸宅並び文学の舞台に

風薫る5月。芝生の映える河川敷から、リコーダーの音が聞こえてくる。「学校の発表会が近くて…」。女子高校生3人が、川に向かって何度も同じメロディーを練習していた。初夏の日差しを受けて、きらめく水面。せせらぎに、リコーダーの柔らかな音色が乗り、ゆったりとした時間が流れる。

芦屋川流域は県内で唯一、保護すべき「文化財」に指定されている景観地区だ。川沿いには、国指定の重要文化財「ヨドコウ迎賓館」や近代建築として名高い芦屋仏教会館。六甲山を背に、歴史的建造物や落ち着いた邸宅が並ぶ風景は、谷崎潤一郎や村上春樹氏の作品のモデルとしても登場してきた。



六甲山地から流れる芦屋川。川沿いには重厚な近代建築や大邸宅が並ぶ

護岸の一部には御影石が使われ、上流は桜並木、河口付近はかつて「白砂青松」と呼ばれた松林が広がる。

「市民の誰もが〝芦屋らしさ〟を感じられる場所」として、市は2012年4月に文化財指定を決定。15年7月に施行された〝日本一厳しい〟屋外広告物条例でも一帯は、市内で最も厳しい看板規制が課されている。

この芦屋川を「世界遺産に」と提唱する人がいる。武庫川女子大学の三宅正弘准教授（47）だ。

「阪神間モダニズムの発祥の地で、自然と調和した近代建築群と、文学性を併せ持つ貴重なエリア。世界遺産のパリ・セーヌ川にも匹敵する」

三宅准教授は芦屋生まれの芦屋育ち。フランスにも渡り、まちづくりや地域デザインを研究している。

世界遺産への推薦を受けるには国の重要文化財指定が前提。三宅准教授は「パリではピクニックや水遊びなど、水辺が憩いの場所として愛されている。芦屋川流域もそんな公共的な空間になってほしい」と願う。（前川茂之）

メモ　文化財の指定は芦屋川の中・下流域。六甲山地を源流に芦屋市西部を縦断し、中流は天井川になっている。過去には頻繁に洪水があり、1938（昭和13）年には阪神大水害を引き起こした。

アクセス　阪急芦屋川駅、阪神芦屋駅下車すぐ。JR芦屋駅からは西に徒歩5分ほど。